

令和元年10月3日

6年生の保護者各位

あま市立伊福小学校長
河村幸恵

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果及び取り組みについて

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。さて、今年4月18日に行いました「全国学力・学習状況調査」の結果につきましては、去る9月2日に個人票を配付させていただきました。本校では、その結果を受け、校内検討委員会を設置し、本校児童の学力や学習状況について分析してまいりました。その概要を下記のように報告させていただきます。この結果を、学習活動並びに学校生活全般を見直す参考とし、これからの教育活動に役立てていきたいと考えています。

記

1 分析の方針

文部科学省及び愛知県教育委員会は、結果の公表については、『序列化や過度な競争にならないようにするため提供された平均値等の数値そのものは公表しない』という方針をとっています。

本校もその方針の下、学校全体の傾向を国・県の状況をふまえて分析しました。

2 全体の概況

- 全体の傾向
 - ・ 正答率については、国語は県平均とほぼ同じ結果となりましたが、やや全国平均を下回りました。算数は全国・県平均を上回る結果となりました。
- 調査ごとの正答数の分布の傾向（全国・県と比較して）
 - ・ 国語…中位層が多く、上位層が少なくなっています。
 - ・ 算数…下位層が少なく、上位層が多くなっています。

3 「国語に関する調査」の結果から

国語では、話すこと・聞くことの問題はよく解けていました。特にインタビューの場面で、相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問をすることができていました。しかし、書くことに関する問題があまり解けていなかったようです。相手に分かりやすく情報を伝えるための記述の工夫を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることが苦手な児童が多かったようです。

4 「算数に関する調査」の結果から

算数では、数量や図形についての知識・理解の力がついており、数学的な考え方に関する問題もよく解けていたようです。特に、量と測定の問題の正答率が高く、場面の状況から、単位量の大きさを基に、求め方と答えを記述することができていました。反対に示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述する問題があまり解けていなかったようです。

5 「質問紙に関する調査（生活実態調査）」の結果から 【 】・・・全国平均

全体的には概ねとてもよい結果でした。

よかった点

- | | |
|--|----------------------|
| ○ 朝食を毎日食べていますか。 | している・・・92.9%【86.7%】 |
| ○ 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。 | している・・・64.3%【58.7%】 |
| ○ 家の人と学校での出来事について話をしていますか。 | している・・・62.5%【50.1%】 |
| ○ 将来の夢や目標をもっていますか。 | 当てはまる・・・80.4%【65.9%】 |
| ○ 物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。 | 当てはまる・・・87.5%【79.5%】 |
| ○ 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。 | 当てはまる・・・46.4%【30.1%】 |
| ○ 学校のきまりを守っていますか。 | 当てはまる・・・75.0%【46.7%】 |
| ○ 人が困っているときは、進んで助けることができますか。 | 当てはまる・・・64.3%【40.4%】 |
| ○ 今住んでいる地域の行事に参加していますか。 | 当てはまる・・・39.3%【37.2%】 |
| ○ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学習やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。 | 当てはまる・・・60.7%【42.1%】 |

改善すべき点

- | | |
|--|----------------------|
| ○ 自分にはよいところがあると思いますか。 | 当てはまる・・・35.7%【38.8%】 |
| ○ 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。 | ほぼ毎日・・・3.6%【10.4%】 |

6 改善に向けての取組

国語では目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことが苦手な児童が多く見られました。授業の中で、調査活動の単元において、「調査の目的や方法」、「調査の結果とそこから考えたこと」などで構成し、内容を書き分けるように指導助言をしていきます。

算数では計算の基礎力は身につけており、算数への意欲・関心が高いことが分かりました。これからも魅力ある教材を開発したり、必然性のある課題を提示したりして、多様な考えを認め、「できた」「分かった」という達成感や算数の実用性を感じさせるような授業を実践していきます。

児童の質問用紙の結果から、規則正しい生活を送り、ご家庭のあたたかい愛情のもと、すくすくと育っている児童が多いことが分かりました。改善すべき点は自己肯定感が低いことです。子どもが頑張った時や何かができるようになった時に一緒に喜んだりするなど普段の生活の中での様子を見守り、達成感が味わえるような言葉がけをしていきます。また、高学年では自主学習にも取り組ませます。学習内容を考えさせることで、学習に責任感をもたせ、自分のペースで進めさせることで、理解や定着を図っていきます。「自分が考えなければ学習が進まない」という状況をつくり、主体的な行動や思考を促すようにしていきます。

また、本校の児童はパソコンやICT機器を使うことがあまりないようです。来年度からプログラミング教育が必修化されます。プログラミングに取り組むねらいは、コンピュータに意図した処理を行うように指示することを体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」などを育成するものです。まずは、プログラミング教育の講師を招いての教員研修を行い、授業実践力を育んでいきます。また、ICT機器等の教育環境も少しずつ整え、児童の実態に合わせた教材開発の推進もしていく予定です。